

短^{たん}
歌^か
集^{しゅう}

は
ね
ず
日^に
記^{っき}

第
二
集

鹿^{かの}
江^え

朱^は
華^{ねず}

【まえがき】

皆様、こんにちは。鹿江^{かのえ} 朱華^{はねず}です。

この度は当歌集『はねず日記』の第二集を手にとって下さり、まことに有り難^あう御座^{がと}います！

前巻にあたる『はねず日記』第一集を出してから、今巻を出すに至るまで、数^{すう}ヶ月^{げつ}ほど掛^かかってしまいました。お待たせしてしまい、大変申し訳ありません（汗）。

思い付き次第^{しだい}、SNSに短歌を投稿し続けた結果……その数^{かず}なんと、三〇〇首を突破しておりました！

これもひとえに、皆様の支えや応援があつてこそですし、周りの皆様には、感謝^{かん}してもしきれない程^{ほど}です。

今巻も、計三〇首（三一首目～六〇首目）ほどの自作短歌を、紹介していこうと思います。

拙^{つたな}い作品ばかりですが……皆様にとってのお気に入りの短歌が、どれか一首だけでも見つければ、私としても非常に喜ばしいです。

『はねず日記』第二集、どうか最後までお楽しみ下さい。

•

※ 無断転載・複製・複写・Web上への掲載（SNS・ネットオークション・フリマアプリ含む）は禁止です。
（^{ただ}但し、当歌集を入手した旨を報告する目的に限り、表紙のみを撮影・掲載するのは可）

※ 処分する際は、可燃ゴミとして廃棄してください。

※ 当歌集を出すにあたり、短歌を数首ほど手直し（^{すいこう}推敲）したので、当時SNSにて発表したものは、少し違ってあります。

第四章

三一
〜
四〇

私^{わたし}にも

見^みせた事^{こと}無^ない

表^{ひょう}情^{じょう}に

芽^め生^ばえる嫉^し妬^と

酷^{ひど}く厄^{やっ}介^{かい}

(二〇二三年 二月 八日)

滅^{ほろ}びゆく

国^{くに}を一^い緒^{しょ}に

抜^ぬけ出^だして

故^こ郷^{きょう}の村^{むら}で

王^わ女^{にょ}と暮^くらす

(二〇二三年 二月 八日)

咲き誇る^{さきほこ}

甘き香りの^{あまかほ}

ヒヤシンス

思ひ出されし

嘗ての恋慕^{かつれんぼ}

(二〇二三年 二月 八日)

友達が

ミシン壊した^{こわ}

らしいけど

うちは4回

壊しましたよ^{こわ}

(二〇二三年 二月 八日)

何^{なに}気^げ無^く

名^な前^{まえ}を呼^よばれ

振^ふり向^むけば

嬉^{うれ}しく笑^{わら}う

君^{きみ}の姿^{すがた}が

(二〇二三年 二月 九日)

解^{かい}錠^{じょう}す

錠^{かぎ}を採^とした

其^その結^{けつ}果^{くわ}

僕^{ぼく}ら二^{ふた}人^{たり}の

手^{しゅ}中^{ちゅう}にあらん

(二〇二三年 二月 九日)

彼^{かれ}らにも

成長^{せいちょう}の芽^めは

存在^{そんざい}し

い^いず^ずれ^れ必^{かならず}ず

大^{たい}樹^{じゆ}と成^なり^て

(二〇二三年 二月 一〇日)

目^めの^{まえ}前^{まえ}の

ス^すテ^てー^じジ^じ上^{じやう}へ

駆^かけ^あ上^あが^がる

し^しゃ^ゃん^んと^と胸^{むね}張^はり

い^いざ^ざ披^{ひろ}露^{ろう}せ^{せん}ん

(二〇二三年 二月 一〇日)

強過つよすぎる

ボスもどうかと

思ひます

渡り合わたあう者もの

居おらず孤独こどくだ

(二〇二三年 二月 一〇日)

夏時なつどきは

涼すずしさのみを

恋こいしがる

逆に冬時ふゆどき

暖だんのみ欲ほつす

(二〇二三年 二月 一〇日)

第五章

四一 ～ 五〇

少しでも

失敗を

高^{たか}みを目指し

引^ひき摺^ずるならば

此^この翼^{つばさ}

其^その部分

大きく広げ

リセッ^トの後^{あと}

羽^はばたいてゆく

いざりベンジだ

(二〇二三年 二月 一日)

(二〇二三年 二月 一日)

どの色いろに

染そまらぬものと

思おもうたが

今いまやすっかり

貴方あなた一色いっしょく

(二〇二三年 二月 一二日)

楽たのしくて

和なごむ時ときほど

速はやく過すぎ

つまらぬ時じ間かん

経たつのが遅おそき

(二〇二三年 二月 一二日)

お揃いの

パジャマを着ては

ベッドへと

夢の中にて

デートしようか

(二〇二三年 二月 一二日)

便箋と

筆を用意し

書き記す

口には出せぬ

此方の気持ち

(二〇二三年 二月 一二日)

君^{きみ}の
肌^{はだ}

吸^すい
付^っく
やうに

柔^{やわ}
らかく

気^きが
付^けば
つい

手^てを
伸^のば
して
る

(二〇二三年 二月 一二日)

何^{なん}回^{かい}
も

繰^く
り
返^{かへ}
され
し

回^{まわ}
り
道^{みち}

終^は
わ
る
と
共^{とも}
に

君^{きみ}
と
再^{また}
会^あ

(二〇二三年 二月 一二日)

土壇場^{どたんば}で

闘志^{どうし}戻^{もど}らば

立ち直^{なお}り

只^{ただ}で倒^{たお}れぬ

そう言^いい聞^きかせ

(二〇二三年 二月 一三日)

こちら向^むき

ワンと吠^ほえては

いるけれど

伝^{つた}えたい事^{こと}

あると予^よ想^{そう}す

(二〇二三年 二月 一三日)

第六章

五一
～
六〇

遊園地
ゆうえんち

あの日見上げた
あの日見上げた

青き空
あおきそら

幼心に
おさないこころ

切なさ染みて
せつなさしみて

(二〇二三年 二月 一三日)

抱えるは
かか

愛と勇気と
あい、ゆうきと

チョコレート

君に届けと
きみにとど

強く願わん
つよねが

(二〇二三年 二月 一四日)

甘い物あまもの

どうも苦手とにがて

言ふならばい

真っ赤に咲いたまか

お花は如何？はな いかが

(二〇二三年 二月 一四日)

仮初めのかりそめ

“普通の自分”ふつう

崩さぬとくず

ポーカーフェイス

固く演ずるかた えん

(二〇二三年 二月 一四日)

寢室しんしつに

幾冊いくさつも

ウサギの耳みみが

長く眠ねむらせ

落ちている

続けたが

此これは昨さく夜やに

いっそ纏まとめて

付けたカチューシャ

売うってしまわん

(二〇二三年 二月 一四日)

(二〇二三年 二月 一五日)

カラオケで

吐^はき出す様^{よう}に

歌^{うた}うるは

精神的な

デトックスです

(二〇二三年 二月 一五日)

春^{はる}来^きたら

共^{とも}に桜を

見^みに行こう

其^その約束で

冬^{ふゆ}越^こせそうだ

(二〇二三年 二月 一五日)

正確に

狙い定めて

トリガーを

引けばそこへと

一直線さ

(二〇二三年 二月 一五日)

幸せを

夢見る吾に

現れん

叶わぬ筈の

甘き幻

(二〇二三年 二月 一六日)

【あとがき】

『はねず日記』第二集、如何でしたか？

当歌集を最後まで読んで下さった皆様には、やはり筆者として、感謝しかありません。

よくよく見返してみると……他の歌人ユーザーさんが提供して下さった、上の句もしくは下の句、そしてお題などを拝借して、自分なりに詠んだ物……それらが今巻の殆どを占めてる事に、今頃気付いてしまいました（笑）。

ですが私の場合、短歌が思い浮かばず行き詰まった時は、そのお題などにより、短歌を詠めたりするので、その度に助けられています。

勿論、他の歌人ユーザーさんが詠んだ短歌から、インスピレーションを得たりしていますが……他の方々の作品と丸被りにならないよう、細心の注意を払いながら、自分なりに表現していく事も、しっかりと心掛けております。

余程の状況でない限りは、決して焦らない事や、その瞬間の閃き等も、大切にしていきたいですね！

次巻である『はねず日記』第三集も、頑張って出そうと思っています。

興味のある方は是非とも、実際に手に取ってみて下さい。

ご感想も、SNSやメール等で、常時受付中です♪

皆様の短歌ライフが、より豊かになる事を、心から願って……。

短歌集 はねず日記 第二集

発行日：2025年 10月 5日

著 者：鹿江 朱華

連絡先：svwft66918@yahoo.co.jp

印刷所：セブンイレブン、
ファミリーマート、
ミニストップ、
ポプラグループ、ローソン

X（旧Twitter）ID：@hnz97713518